多死社会における技術 = 文化システムのリデザイン

このテーマのキーワード

多死社会、葬祭文化、技術と文化、人文知

関連するSDGS開発目標















研究内容(社会背景・目的、概要、期待される効果)

(社会背景・目的)

- 従来の葬式や墓の維持は、極めて困難。
- 一方、プロフェッショナルとしての葬祭業者に対する 注目の高まり。『AIに取って代わられない仕事100こ ども手に職図鑑』(誠文堂新光社、2020年)には 「納棺師」が取り上げられた。
- 葬祭文化そのものが大きく様変わりしつつある現在、 従来と将来との円滑な接続が求められる。

(概 要)

- 葬祭文化に代表される生活文化へ、新たな技術が導入されると、従来の技術=文化システムは軋む。
- システムの軋みは、個人的な違和感として表出される。 いらすとやが示す「オンライン墓参り」は好例。
- ここで生じる微妙な違和感の正体について、人文知を 参照しつつ分析・考察した上で、再提案を試みる。

(期待される効果)

- 葬祭文化の再構築への貢献。
- 福祉領域を含め生活文化全般への応用。





想定される適用分野・用途・業界

- 車業祭業および関連業界
- ●医療・福祉分野
- ●公共政策

産業界へのアピールポイント

●産業界のシーズを、葬祭文化のニーズ やウォンツといかにマッチングするか、 まずはIT領域で取り組み始めています。

建設学科 土居 浩 教授

このテーマに関するお問合せ ものつくり研究情報センター E-mail: mric@iot.ac.jp TEL: 048-564-3880

